

2010年
9月号

Mini-WAN

～三河港湾事務所より～



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

☆CONTENTS☆

■最近のトピックス

- 中部地方整備局事業評価監視委員会
- みなとふれあい体験イベントが開催されました
- 地震防災セミナーが開催されました
- 三河湾環境改善改良工事
- 港内見学を開催しました



- 平成22年度みなとオアシス連絡協議会が開催されました
- スーパーエコシップ興山丸が三河港に初入港しました!
- 人間環境大学・海洋環境学講座が開講されました
- 事務所防災訓練を行ないました

■編集後記



☆最近のトピックス☆

○中部地方整備局事業評価監視委員会

9月7日、中部地方整備局事業評価監視委員会[※]がK K Rホテル名古屋にて開催されました。当事務所は、「衣浦港武豊北ふ頭地区国際物流ターミナル整備事業」を対象事業として審議していただきました。事業の必要性、整備効果等について説明した結果、事業の継続が了承されました。

引き続き、衣浦港の取扱貨物の増大、及び船舶の大型化に対応し、物流の効率化を図るとともに、航行の安全性を確保するために国際物流ターミナルの整備を進めていきます。

※ 国土交通省では、平成10年度より、公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図るため、公共事業評価システムを導入しています。

中部地方整備局事業評価監視委員会は、中部地方整備局長の委嘱により設置されているもので、事業の評価に当たって、客観性・透明性を確保するため、学識経験者等の第三者から構成されています。また、委員会は報道関係者に公開して開催しております。



「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp



おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間[※]/9:00~12:00と13:00~17:00(土・日・祝祭日を除く)

[※]一部の地域を除きます。



○平成22年度みなとオアシス連絡協議会が開催されました

8月20日、みなとオアシス連絡協議会が静岡県沼津市役所にて開催されました。今年5月に「ちた新舞子」が認定されたことにより今回から4市（蒲郡市、沼津市、津市、知多市）によって運営されることになりました。まだ連絡協議会の開催は3回目ですが少しずつにぎやかになっております。みなとオアシス連絡協議会では決算報告や今後の事業が承認され、今後もみなとの賑わいの発展につながるよう活動していきます。協議会終了後には、メンバー全員で、沼津港ならではのマーケットモール「沼津みなと新鮮館」及び大地震時には津波の侵入を防ぎ360度の展望も可能な大型展望水門「びゅうお」を視察しました。「みなとオアシス」とは市民団体、商店街、漁協などの地域の人々と連携した取り組みにより、海浜、旅客線ターミナル、広場など、みなと周辺の施設やスペースを活用して、みなとを核としたまちづくりや防災拠点の形成を目指すものです。



連絡協議会の様子



大型展望水門「びゅうお」

○みなとふれあい体験イベントが開催されました

8月24日、みなとふれあい体験イベントが豊橋市主催で開催されました。参加者は約30人で当事務所の港湾業務艇「しおさい」による、船上からの三河湾の見学を行いました。

参加者の方は、自動車運搬船を見て、「あの、船はなんですか？」と疑問を持ち、三河港が自動車の取扱において日本のトップクラスであるという説明を聞いて、興味深く船上から観察していたり、日頃は見られない船からの景色を楽しんでいました。

また、その日は花王(株)豊橋工場への見学もでき、三河港に隣接する企業へも興味をもっていただける見学会になったと思います。



花王工場見学の様子



船からの三河港見学

○スーパーエコシップ「興山丸(こうざんまる)」が三河港に初入港しました！

9月6日、国内最大級のスーパーエコシップ「興山丸」が三河港に初入港しました。

「興山丸」は、モーターとディーゼル機関を併用した我が国初のタンデムハイブリッド方式の推進システムを採用し、従来の方式に比べ、燃料の重油使用を10%程度削減できるなど、環境性・安全性・経済性に優れたセメント運搬船です。

同船は、全国13隻目のスーパーエコシップとして4月に進水したばかりで、このたび初航海を行い、初めての寄港先として三河港に入港しました。

当日の午前11時から、三河港振興会（会長 佐原光一豊橋市長）主催で、同船展望ブリッジ内において、地元港湾関係者や報道関係者が見守る中、同船の初航海と三河港初入港の記念として、ミスみなと（船の女王：大羽智子(おおぼともこ)さん）から、船長の加藤佳宏(かとうよしひろ)さんに記念品と花束を贈呈しました。

「興山丸」は、今後も定期的に運航され、月に数回程度、基地港である宇部港から、三河港や名古屋港、関東地域までセメントを運搬することになります。

今回の「興山丸」入港をきっかけにして、更に環境に優しく、更に利用しやすい三河港を目指して、努めていきたいと思っております。



ミスみなとから花束を受け取る船長



三河港に入港した興山丸

○地震防災セミナーが開催されました

8月25日、地震防災セミナー（衣浦港振興会、衣浦港整備促進期成同盟会共催）が碧南商工会議所に開催され、会場は150人以上の聴講者により埋め尽くされました。

冒頭の挨拶で衣浦港振興会黒田会長より中越地震による被害影響の大きさを例にBCP※の重要性について述べられました。「地震防災から見た衣浦港の現状と課題」というテーマで当事務所長が講演を行いました。三河港の明海地区（豊橋市）での検討事例を元にBCP導入に向けた要点を簡潔に説明させていただきました。今後の防災力の向上につながるようにしていけたら良いと思います。

※BCPとは BUSINESS CONTINUITY PLANの略称で、企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと。



セミナーの様子（当事務所長の講演）

○人間環境大学・海洋環境学講座が開講されました



船上での水質調査の様子

8月23日～25日の3日間、愛知県水産試験場において人間環境大学の海洋環境学講座の実地研修が行なわれました（大学生12名参加）。これは、人間環境大学が現場での体験学習に力を入れ学生の実地に対する意識の向上と、海洋環境の実態や保全・改善に係る基礎的知識を習得させるために開講しています。

当事務所は、23日の現場研修を担当させていただきました。当日は波もなく非常に穏やかで現場研修日和でした（スナメリも見ることができました）。当事務所の港湾業務艇「しおさい」に乗船し、三河湾の湾奥部、湾口部で水質（溶存酸素量）、底質（目視観察）、生物調査（プランクトン採取）を行いました。調査により三河湾奥部の海底付近では海水中に溶けている酸素が少ないこと、三河湾奥部の海底の泥はイオウ臭がすることを体験できました。また、水産試験場の会議室で、港湾の役割、中部地方整備局の海域環境改善への取り組みを紹介させていただきました。

短期間の実地研修でしたが、三河湾の環境、環境改善への取り組みについて理解を深めていただきました。

○三河湾環境改善改良工事

平成22年3月～7月に蒲郡市西浦町の龍田海岸において、干潟機能の向上を目的とした工事を行いました。

工事内容は、排水路から龍田海岸の階段護岸沿いへ出た水が自然に海へ流れ出るように、天然石の水路を設置したものです。施工前の写真でもわかるとおり、水が溜まり、この水が循環されなかったため時間が経つと異臭を放っていました。整備後の水路内には魚類など多くの生物が生息し、水路周辺にカモの親子など多くの鳥類も確認されるようになりました。

現在は、階段護岸の沖合300m付近に天然石を投入する工事を行っています。これにより波浪による水路前面の干潟の変形を防止形状を安定させることができます。



施工前

施工後

○事務所防災訓練を行いました

9月1日、中部地方整備局総合防災訓練を開催しました。今回の訓練は、大規模災害発生後の被災状況把握、関係機関との連携、所管施設の応急復旧等の訓練を通じて、災害対応の充実を図る事を目的として行われました。

訓練は、「東海地震、東南海・南海地震の同時発生」「大型台風が日本に接近。2～3日後に大雨が降る予報」という「ダブルハザード」を想定し、実施しました。

特に当事務所における訓練では、昨年の「駿河湾沖地震災害」「台風18号によるコンテナ移動等の埋立地の高潮災害」「チリ沖地震に伴う津波災害」という実際の防災業務の体験を踏まえ、得られた課題の改善の検証を主眼に訓練を展開しました。

また、当日は「豊橋市総合防災訓練」にも当職員が参加し、当事務所との連携で港湾業務艇「しおさい」による臨港地区の企業の帰宅困難者の海上輸送訓練も行われました。

今回の訓練で得られた課題を今後の改善項目として、さらなる防災方策を検討していきたいと考えています。



事務所内に設置された災害対策支部



豊橋市の訓練

○港内見学を開催しました

8月27日、浜松市ざざんざ放課後児童会の皆さんが、当事務所港湾業務艇「しおさい」で三河港の見学をしました。今回乗船した浜松市の小学生達は、海＝（イコール）遠州灘をイメージする児童がほとんどで、三河湾奥に位置する三河港の海水の色、海に浮かぶゴミの多さに最初少し戸惑った様子でした。しかし、多くの企業が立地する明海地区、田原地区等に船が航行するにつれて、自動車運搬船やセメント運搬船等が行き交うようになり、また岸壁での重機等を使用した迫力ある荷役作業を見て、「あの船何台自動車を運べるの?」「どこに運ぶの?」など興味津々な質問が飛び交うようになりました。船内のあちこちから港、船に関する質問の対応で担当職員は大忙しでした。

港はみんなの生活に欠かせない存在であるということを理解してもらえた見学会になりました。



船から真剣に海を見る児童達

☆編集後記☆

昨年は台風18号による高潮被害を三河港は受けましたが、今年は幸いにも台風の発生も少ないようです。1895年台風13号により被災を受けた神野新田堤防には、守護のため多くの篤志家の寄付により約6kmに渡り33体の護岸観音が建立されています。当時の人は観音の御分身を安置して万人の巡礼を乞い、観音にお参りする人々に、堤防の破損をはやく見つけてもらう役目もあったようです。

自然災害は思わぬときにやってきます。災害をなくすことはできませんが、被害を少しでも減らすことは今からでも取り組むことができます。普段からできることから取り組んで災害から身を守るよう心がけましょう。



三河港湾事務所ホームページはこちら <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>